

栗原市社会福祉協議会若柳支所が取り組む高齢者の社会参画講座「熟年わんぱく塾」の塾歌が完成した。講座を卒業した1～3期生が会員の趣味や特技を生かして作詞作曲。歌を通じて親睦を深め、年齢を重ねても生き生きと過ごす姿を地域に発信する。

塾歌の練習をする岩淵さん(左)と佐藤さん(右端ら)



# 熟年パワーで塾歌完成

北部

## 栗原・若柳の講座「わんぱく塾」卒業生 応援歌イメージ 作詞作曲

塾は元気な高齢者の力を地域福祉に生かそうと2022年7月開講。毎年、約半年間に福祉やコミュニティーに関する座学や、コーヒールのおいしい入れ方を学ぶ実習などを展開する。

塾歌は、22～24年に卒業した1～3期生計約30人でつくる同窓会が中心になって企画。昨年9月、塾の活動が市の広報紙で特集された際の祝賀会で塾歌を作る構想が浮上り、会員に歌詞を募るなどして完成させた。

塾歌の1番は塾生との出会い、2番は塾での学び、3番は未来に向けたメッセージといったテーマで構成。入塾時の心境は「熟年ハートは、ドッキドキ」とユーモアたっぷりに振り返り、受講時の気持ちは「ありのままの自分で、何かできそうな」と前向きな言葉で表現した。

川柳が趣味で歌詞の原案を考えた佐藤友子さん(76)＝栗原市若柳＝は「歌ができるなんて思ってもいなかったのが夢のよう」と感激。音楽好きで作曲を担当した岩淵安弘さん(65)＝同＝は「塾生の応援歌をイメージし、歌いやすい曲に仕上げた」と話す。

お披露目は26日、関係者が集まる会合で行う予定。岩淵さんによるギターの伴奏に合わせ、佐藤さんらが塾歌を歌う。